

番町

第 12 号 平成27年 6 月
発行 番町小学校同窓会
〒102-0085 千代田区六番町 8
東京都千代田区立番町小学校内
TEL 080-3012-1001 FAX (03)3263-3731
郵便振替口座 00160-7-352085
編集 番町小学校同窓会事務局
印刷 株式会社 精興社

《番町人物誌・第一回》

すぐれし人もあまた出できて……

～百二十年前の卒業記念写真から～

西岡芳文（副会長 昭和44年度）

創立記念日の歌に、「すぐれし人も数多（あまた）出できて」というフレーズがあります。番町小学校の優秀な卒業生が社会に出て活躍し、「かぐわしき名を世に立て」ていることを歌ったものです。それではどんな卒業生がいて、どのように活躍していたのでしょうか。著作の多い作家や学者ならば調べることは容易ですが、政財界や軍人の分野になると、なかなか追跡することが難しくなります。今はインターネットという便利な手段があるので、図書館しかなかった時代に比べると、検索の手段には恵まれています。それでも、珍しい名前ならば簡単にたどりつけますが、ありふれた名前だと、同定することが困難です。通常の経歴紹介では、出身小学校までは書いてありませんから。

同窓会として母校の資料室の運営をお手伝いするようになり、卒業生のデータについても積極的に収集しようと心がけていますが、まだ満足のいく段階には達していません。インターネットの「ウィキペディア」の「千代田区立番町小学校」の項目に、現段階で得られた有名な卒業生の情報を載せておりますので、興味のある方はご覧ください。また、それに漏れている名前があったら、ぜひ御教示くださるようお願いします。

卒業生探訪の第一回としまして、資料室のケースにひっそりと展示されていた一枚の集合写真に注目したいと思います。色あせていて、うっすらとしか見えない古写真ですが、パソコンに取り込んで増感処理をしてみました、何とか見られるようになりました。詰襟や軍服を着た、いかにも強面の青年たちが、木造校舎の唐破風の玄関の前に並んで写っています。

幸いなことに、この写真の裏面には印刷された貼紙があって、明治27年（1894）の卒業生が、卒業10周年を記念して、明治37年（1904）2月14日に撮影したものであることが分かります。高等小学校はだいたい14才で卒業ですから、この人たちの年齢は24才というところでしょう。写っている人の名前も印刷されているのですが、先生を



「五日市の寺」



「津軽馬っ子」



「つわぶき」

蟹江雅士（昭和 41 年度）

東京芸術大学美術学部絵画科（日本画）卒、横浜在住

杜人展（杜人会）、ハマ展（横浜美術協会）出品

日本美術家連盟会員、日本城郭史学会会員



「緑陰」と作者



「城壁」

岡田良記（昭和 41 年度）日本大学芸術学部美術学科絵画科卒、茅ヶ崎在住

東京（青山、池袋、渋谷）、大阪等で個展開催、

「ブラジルへの架け橋 Vol.1 アートでアマゾンを助ける」（京都国際交流会館）に出展

「羊を数えて眠る本」（二見書房）出版（日本、ドイツ、韓国）

「大人の塗り絵・野鳥」「大人の塗り絵・ハーブ」「写仏」（ともに二見書房）出版（日本、台湾）

「ジュラシックパーク・ゲームブック」、「刑事コロンボ」文庫本シリーズ表紙、横浜カレーミュージアム内装画、新宿ルミネ店内壁画など数多くのイラストレーションを手がける



「バタフライオーキッドの精」



「東浜より江之島を望む」



7ページに続く



「アマリリスの精」

同期会・クラス会報告

古希を祝う

昭和31年度卒 3組幹事 保坂重雄

終戦の1年前の昭和19年生まれの私達が揃って70歳を迎える平成26年に、「古希を祝うクラス会」を開こうと2年前に計画し、実現に漕ぎつけた今年。6人の幹事が手分けして準備し、11月1日（土）に開催決定。会場はプラザエフ（旧主婦会館）。

子供を「産めよ増やせよ」の時代の私達、1クラス50人編成でこの日は29名が出席してくれました。遠く滋賀から1泊で出席してくれた友人や、病身を押して出席してくれた友人、両親の介護の合間に駆けつけてくれた友人等々。当日は、小学校の頃の自分に帰って名前も呼び捨て、女性は下の名前と呼んだり、心は小学生に成り切って遥か昔を懐かしみ、語り合っていました。古希の宝石「アメジストストーン」を記念に配ったり、福引をしたりした後、本日のメインイベント、現在の番町小学校への訪問が待っていました。私達の小学校時代の番町小学校は戦争で焼け残った校舎で、地下にはまだ瓦礫が残り、格好の遊び場でした。また給食はアルミのお皿にコッペパンと脱脂粉乳のミルクでも、とても美味しかったのを覚えています。

当日は、額賀校長先生、田口副校長先生、太田愛育会会長様、他愛育会の方々のご案内で「資料室」や「屋上芝生グラウンド」「校長先生の部屋」迄拝見出来、皆大喜びでした。

今70歳になり、心の通う小学校の時の友と接し、色褪せる事の無い思い出が蘇り、私達の宝であると考えた昨今です。



還暦同期会

昭和41年度卒 5組幹事 高島博志

若き学生時代には気付かなかったが、年齢を重ねるに従って“時の流れ”の早さに気付かされる事が多くなります。私は（10年前の）2004年に50歳の誕生日を迎えた時、来たるべき10年後におとずれる60歳（還暦）ではどんな心境の自分が居るのだろうか。仕事は？ 健康は？ などとアレコレ考えていたのです。

そんな私たち（昭和41年度卒業）がとうとう還暦というその時を迎えた2014年、卒業以来48年間にわたり、なかなか会う事もままならなかった（特に他クラスの）懐かしい旧友に出会う場を創ろうと、1組から5組の全クラス合同クラス会と称して同期会を開催しました。

平成26年10月25日（土）、会場は神田駿河台3丁目、同期の浜田敏男君が経営するホテル龍名館お茶の水本店1Fにオープンしたばかりの“Green Tea Restaurant 1899 Ochanomizu”です。同店は、日本

茶をテーマとした新しいタイプのカフェレストラン。開店以来、複数のメディアでも取り上げられている人気店を（当然ながら）貸切りにして14：00から19：00までの約5時間、私たち同期生が占領させて頂きました。

開会の30分程前から続々と出席者が到着し、当日の出席総数は首都圏のみならず全国・海外在住者まで含



めて73名。当初、不安で一杯だった幹事一同も、会場の熱気にホッと胸を撫で下ろしました。乾杯、歓談へと会は進行し、会場の設営形態が“半立食パーティー式”だったこともあって自然と輪が出来、話に華が咲きました。途中、幹事有志が作成したなつかしい「フォトアルバム」の映像披露やビンゴゲームなどの企画を経て、本当にアッという間…一気に5時間にも及ぶ一次会が終了しました。解散後は、クラスや仲間達など小グループになって複数の二次会会場へ。後日、話を聞いたところ…いずれの会場でも昼から長時間飲み続けた還暦酔客が、大いに盛り上がっていたとか。思い出に残る一日となりました。

同期会

平成26年12月6日午後6時30分開宴。アルカディア市ヶ谷私学会館にて3年ぶりの同期会を開催。3組と5組はクラス会を開催したばかりなので、どのくらい集まるか心配しましたが、当日参加もあり、46名の出席となりました。わざわざアメリカから神宮奈々美（旧姓）さんが参加してくれました。卒業以来の再会でした。

池田宮子先生、阿部富美子先生、村岡汎子先生がお越し下さいました。80代、70代の三先生が、それぞれに興味やボランティアなどの社会活動をされ、様々な興味をお持ちになり、年齢に甘えることなく強いお気持ちで生活していらっしゃるご様子を伺い、人生の後輩としては大変勉強になりました。



アナログフィルムに凝っている飯高智君が、こだわりのローライフフレックス6×6フィルムで全体写真の撮影をしてくれましたが、調整にかなり待たされた上に、タイマー撮影で何度も本人が間に合わず（笑）。不安定な姿勢でずっと待たされた中段上段の同期生が、早くしろコール。見るに見かねた喜多久光君がデジカメで撮影したので、両者写真に写っていないのが残念ですが、賑やかな全体写真撮影は大爆笑の渦でした。

今回は60歳還暦を記念して二年後の12月第1週土曜日に、少し豪華な同期会を開催する予定です。

昭和44年度理事 西岡真理子（旧姓新井）



平成7年度同期会

理事 藤本貴也

平成26年12月、平成27年1月と同期で集まりました。2回で40人ほどが参加しましたが、これをきっかけに連絡を取り合って、少人数ながら集まる回数が増えました。これからも集まりを続けて、再び同期の輪を広げていければと思っています。



同期会後はクラス会

昭和41年度2組幹事 碇純吉

10月にあった同期会の二次会でとんとん拍子に話が決まり、平成27年2月28日（土）17:00から赤坂クラブで開きました。同期会に出席出来なかったクラスメイトも参加して盛り上がりはMAX、またまた二次会まで。時間が過ぎるのも忘れて大いに飲み、語り合いました。



番町小学校とその周辺 ～江戸から明治へ～

新井巖（前会長 昭和30年度）

現在の番町小学校の前身は、明治3年（1871）に、出来たばかりの東京府により仮小学として6校が設立されたうちの1校であった。当時の校舎は、市谷八幡町の洞雲寺に置かれた。その翌年、管轄が東京府から文部省に移され、仮小学校から小学校第二校として正式に発足した。これをもって番町小学校の創立が、明治4年12月4日と定められたのは周知の通りである。その翌年に、現行番地という千代田区六番町8番地の現在の場所に移転したのである。以来、番町小学校の歴史はこの地とともに歩み続けた。

ここでは、この地がそれ以前にはどうであったかを辿ってみたい。江戸時代には、幕府普請奉行が編輯した「御府内沿革図書」^{おふないえんかくずしよ}を見ると、元禄9年の頃は、中嶋、鈴木という2つの比較的大きな旗本屋敷があった。その後、享保9年になるとその敷地が合わさり火消御役屋敷と記されるようになる。それ以降の文化5年、天保9年の図面でも同様である。これは池波正太郎の時代小説『鬼平犯科帳』でおなじみの長谷川平蔵が任命されたと同じ役で、常火消役、火附盗賊御改役の公舎であった。現代でいえば、消防と警察を兼ねた長官の住む官舎だったわけだ。幕末の文久元年になって、小幡藩（現在の群馬県甘楽町）藩主の松平摂津守の上屋敷となった。2万石という小藩といえども徳川家の親藩であった大名である。



津田出



谷干城

明治になると、明治6年の^{こけん}沽券図では、当時の地番である下六番町19番地には官立小学校、明治7年の地図（下の地図参照）を見ると文部省御用地と表記されている。その地図の主な屋敷を紹介する一覧表では、その場所を「番町学校」としている。興味深いのは、この一覧表によれば、番町小学校の周辺には、多くの明治政府の高官の屋敷があったことが見てとれる。学校の正門前の左角は、武者小路家となっており、まだ実篤が生まれる前で早世した父の^{さねよ}実世（子爵1851～87）の屋敷だったと思われる。その隣が津田^{いずる}出（貴族院議員1832～1905）の屋敷であった。津田は紀州藩の出身で、明治政府では廃藩置県や徴兵令に影響を与えた人である。また幼稚園の門の前は、^{たてき}谷干城（子爵1837～1911）や^{ふくばびせい}福羽美静（子爵1831～1907）の屋敷があった。谷は、坂本龍馬の2歳下の土佐藩士で、後に西南戦争で熊本鎮台を死守し名を挙げ、その後学習院の院長にもなっている。福羽は幕末明治期の国学者で、廃仏毀釈の神道政策を推進した人である。

そして四谷寄りの広大な土地は、江戸開府から変わらずに犬山城主で尾張藩の付家老だった成瀬^{はやとのしょう}隼人正の上屋敷であり、明治になっても昭和の初期までは成瀬家（男爵／当主正肥^{まさみつ}1836～1903）の広大な屋敷があった。その頃



福羽美静



成瀬正肥



岡部長職

は、まだ武者窓のついた屋敷跡が残され、当時の人からは元禄長屋と称されていた。また現在の雙葉学園あたりの地所は、岸和田藩の最後の藩主で、のちに外交官や東京府知事を歴任した岡部長職^{ながもと}（子爵1835～1925）の屋敷であった。その後、明治43年（1910）、前年に築地に開校した雙葉高等女学校が、この地に移転して現在に至っている。

まさに番町小学校とその周辺は、天井のない歴史館とでも言えよう。



明治7年発行「東京大小区分絵図(第三大区三四小区)」の一部 ●印が、現在の番町小学校

同窓生訪問 第1回



「江之島参道絵巻」(ペン画)



「江之島参道絵巻」
(ペン画 部分図)



「江之島参道絵巻」(部分図)

3点全て岡田良記氏画

愛育会より感謝を込めて

太田雅之（前番町小学校愛育会長）

番町小学校愛育会長の大任を仰せつかりまして2年。このたび任期を満了し退任いたしました。この間、愛育会の一員として多くの保護者とともに、番町の子どもたちのために多少なりとも尽くすことができましたことを光栄に思います。

この二年間を今振り返るとき、番町小学校における同窓会の存在の大きさを、あらためて感じています。同窓会が継承の力を存分に尽くしていただけるからこそ、番町小学校は伝統の底力をもつ番町小学校であり続けるのだと私は思うのです。番町の歴史と今の記憶を、同窓会が連綿と後世に引き継ぎゆくことは、もはや地域の社会的機能といえます。一方、愛育会は学校とともに、保護者と子どもたちにこの記憶を語りかける役割を担います。そして私も総会で保護者に、卒業式では子どもたちに、番町の歴史を次のような物語として話すのです。

『今から150年ほど昔のこと。江戸時代が終わり、明治政府という新しい国家が立ち上がりました。明治維新から日も浅い明治4年、このできたての新しい国家は、6つの小学校を東京につくりました。夜明けを迎えたばかりのこの国の未来を、子どもたちに託すために。それが「官立六校」と言われる新政府直轄の小学校でした。そのひとつが番町小学校です。この小学校には、この国の礎を築いた多くの卒業生たちがいます。この小学校の子どもたちは、政府が儀礼を尽くしてご接遇する国賓を、宮殿に赴きお出迎えします。この小学校の記念日には、天皇陛下や皇太子殿下の行啓を賜ります。

日本中のどこを探しても、そんな小学校がほかにあるでしょうか。この国の未来をゼロから拓くために生まれた番町小学校。子どもたちはこの系譜を受け継ぎ、ここから世に一步を踏み出すのです。』

子どもにも、ほかの地域のかたにも、わかりやすいストーリーを示すことは、愛育会の重要な活動のひとつだと思います。また、私たち愛育会は、この物語や子どもたちの体験に共感してくださる多くの応援団との「結節点」となれるよう取り組んできました。子どもたちの第一の当事者だからできることをきちっと果たし、地域ぐるみで子どもを育む番町の機運がさらに確かなものとなることを願うのです。

番町こども会の一環として、夏休みに校庭で始めたラジオ体操会は、同窓会のご協賛もいただき、学校や町会などとの協働で開催しています。歩きスマホの危険への警鐘キャンペーンは千代田区と、「サンさん秋まつり」への出展などは麹町警察署と緊密に連携しています。教育委員会と大手企業のご協力をいただきスクールカラーの数値化にも取り組みました。番町独自のえんじ色をディスプレイや印刷物で表現する際、一定の色（名称：番町色、英語名：bancho）を再現できるようになりました。

多くの皆さまはご存知のとおり、私は番町小学校の卒業生ではありません。就任当初を振り返ると、なにも知らない愛育会長でした。とにかく聴いて回って、整理して理解する作業が私には必要でした。長きにわたり根気強くご指導くださいました同窓会会長の岩瀬裕全様、前会長の新井巖様、副会長の豊島快児様と津田真知子様、事務局の中村久美子様ならびに多くの皆さまに心より御礼申し上げます。また、同窓会会員の皆さまには、愛育会への変わらぬご理解と心温まるお力添えを賜りました。番町の誇りを守り続ける皆さまの弛まざる熱意に敬意を表しますとともに、心からの感謝を捧げます。



番町子ども会



ラジオ体操 (H25)